

経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県 越谷・松伏水道企業団

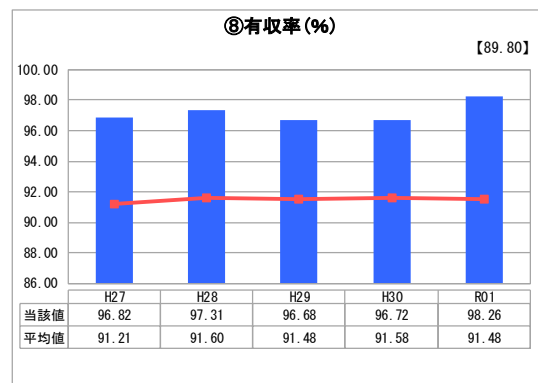
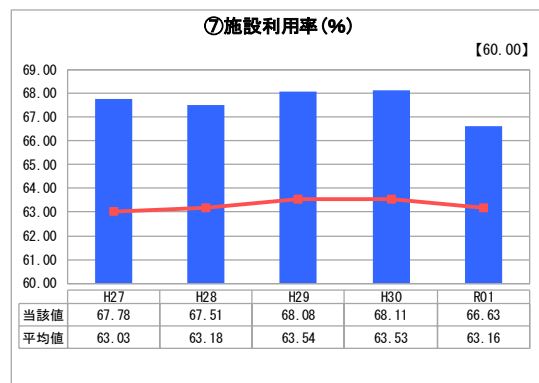
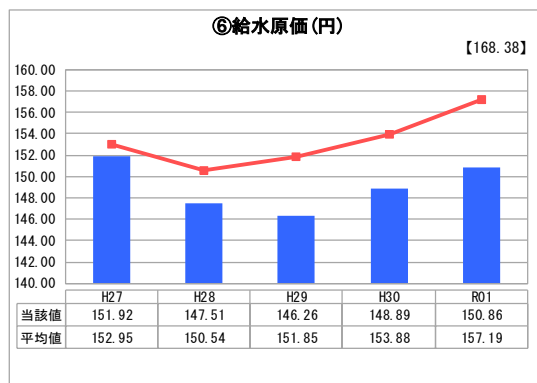
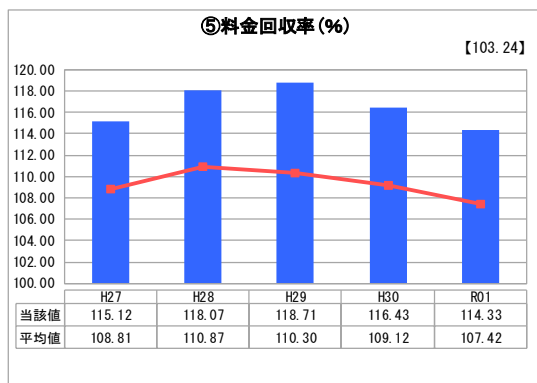
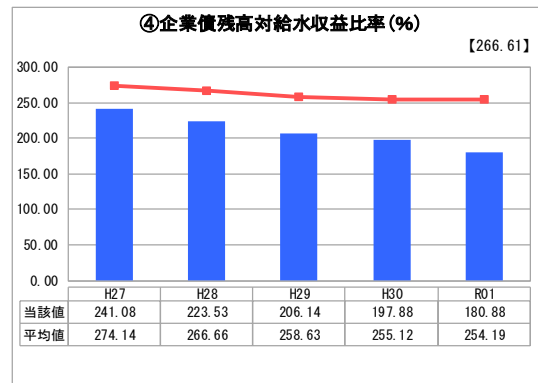
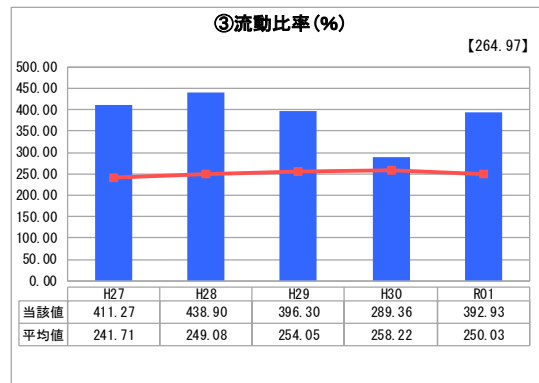
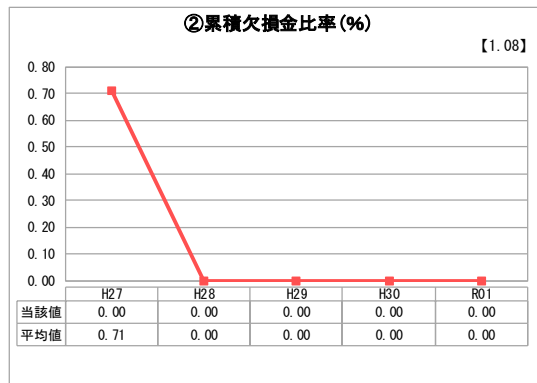
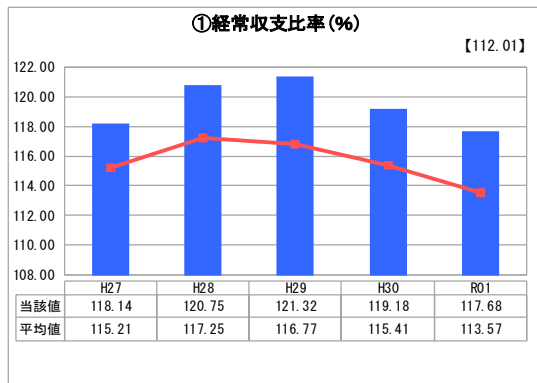
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	80.53	99.99	2,805	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
373,695	76.44	4888.74

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、② 累積欠損金比率
 経常収支比率は経常費用の増加に伴い前年度を下回ったが、100%以上で推移しており、収支は黒字である。累積欠損金もなく、健全な経営状態である。

③ 流動比率
 流動比率は100%を大きく上回っており、望ましいとされる200%も超えているため、支払い能力は十分あると言える。

④ 企業債残高対給水収益比率
 企業債借入の抑制により企業債残高対給水収益比率は減少傾向にあり、類似団体よりも低く抑えられている。

⑤ 料金回収率
 料金回収率は100%を超えており、類似団体平均値よりも高い数値であることから、経営に必要な経費を水道料金で賄うことができている。

⑥ 給水原価
 給水原価は主に減価償却費の増加により上昇したが、類似団体平均値よりも低く抑えられている。今後も費用の削減に努めていく。

⑦ 施設利用率
 一日平均配水量の減少により、施設利用率が低下した。今後も水需要の減少とともに低下していくことが見込まれる。施設の更新時には、ダウンサイジングやスペックダウンを考慮し、さらなる水需要の減少を見据えた計画的な対応を図る必要がある。

⑧ 有収率
 有収率は累次の漏水対策の効果により、類似団体平均値よりも高い水準を維持しており、効率的に水道事業を行っている。

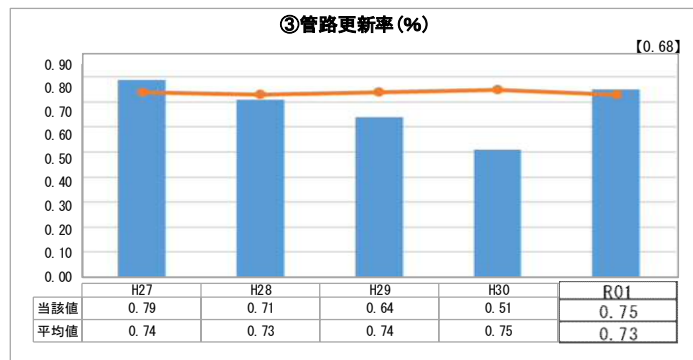
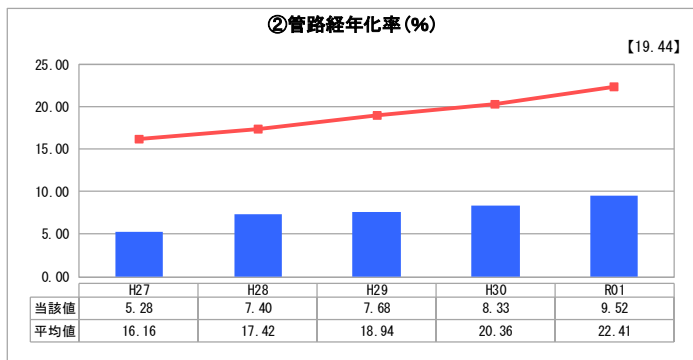
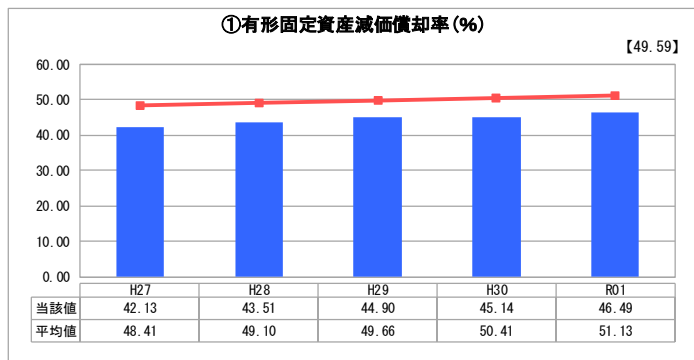
2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値は下回っているものの、徐々に上昇しつつあり、水道施設総合管理計画に基づき着実に施設更新を進めていかなければならない。

② 管路経年比率
 類似団体と比較すると管路経年比率は低い状況にあるが、徐々に上昇しており、管路更新計画に基づき計画的に管路を更新していく必要がある。

③ 管路更新率
 新材料（水道配水用ポリエチレン管）の導入により工事費が縮減され、管路更新を進めることができた。今後も管路を健全に維持していくために、新材料や新工法の採用などでコストダウンを図り、必要な投資を進めていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

現在のところ、全般的に経営の健全性が確保されており、施設も有効に活用できているものと考えられる。しかしながら、ライフスタイルや世帯構成の変化、節水機器の普及などにより水需要が減少していることに加え、近い将来、給水人口が減少に転じることが想定され、給水収益が減少していく一方で、施設の老朽化が徐々に進んでおり、今後、厳しい経営状況となることが予想される。

令和2年度に当企業団の基本計画である「マスタープラン」の後期見直しを行い、現状の分析とともに将来的な需要動向を改めて把握し、併せて「経営戦略」の改定を行う。今後も、社会生活と経済活動に欠かすことのできないライフラインとしての水道を堅持し、災害に強い「強靱」な施設により、「安全」で良質な水を「持続」して送り続けられるよう、長期的な視点による計画的で効率的な事業運営に取り組んでいく。